

### 【自己診断シート】

株式に比べれば報道で取り上げられるようなことも少ない「債券」について、教科書で学習した「国債」「公債」とつなぎながら、その存在を確認します。ここでは「債券って何だろう」「株式との違いは？」「誰が買っているのか」といった疑問から入っていきます。

Aの解説：

「債券」を聞いたことがない生徒たちが多い場合は「国債」などを例に出して「債」という文字が入っていることを確認するのも一つの方法です。

Bの解説：

債券に市場があることは教科書でもあまり取り上げられていないため、設問で関心を引き出します。

Cの解説：

債券市場の特徴について関心を持たせます。債券市場では、参加者の大半が機関投資家や金融機関ですが、個人向け国債のように個人が少額から購入できる債券もあります。

設問2の解答と解説：一般家庭以外すべて○

どのような機関や団体が債券を発行しているか、予測させておきます。

---

### 【確認テスト】

[解答] 1 : C    2 : B    3 : C

[解説]

1 : 債券は投資家から借金をするときに発行する、一種の借入証書（借りたことの証明書）です。会社は証券会社を通じて投資家に債券を販売し、集めたお金を活動資金とします。

2 : 公共債には「国債、地方債、政府関係機関債」があり、民間債には「社債、金融債」などがあります。このほか、外国の政府や企業が発行する「外国債」というものがあります。個人では債券を発行することはできません。

3 : 証券取引所で取引される株式とちがって、その売買のほとんどは、証券会社の店頭で行われています。